

※本作業は、サントリー世界愛鳥基金の助成を受けて実施しました。

コウノトリのヒナへの 足環装着作業記録

2023年5月19日(金)
小山市 自然共生課

作業の結果

< 2023年5月19日(金)実施 >

< 総括 >

ヒナに網をかぶせた時刻 (ヒナ捕獲)	10:07
ヒナを箱に収容した時刻	10:11
足環装着・検体採取が終了した時刻	10:39
ヒナを巣に戻した時刻 (ヒナ解放)	10:49
親鳥が巣に戻った時刻	11:23

- 孵化推定日 (4月6日) から43日齢のヒナ2羽に個体識別のための足環装着及び検体採取を行いました。
- 親鳥の体重が5.0kg程度、足環装着時のヒナの体重は3.5kg~4.0kg程度であることを考えると、ヒナは、順調に成長中と言えます。
- 作業中のヒナは、終始おとなしい状態でした。
- 親鳥はヒナ解放から30分程度で巣に戻りました。

個体番号	リング番号	左足		右足		体重
		上	下	上	下	
J0528	14D-01528	黒	青	緑	黄	4.2kg
J0529	14D-01529	黒	緑	緑	黄	4.1kg

足環装着の意義と作業手順



<作業の意義>

- コウノトリの個体番号が書かれた異なる組み合わせの色の足環を装着することにより、個体の識別が可能となり、個体の移動や生死、生態を詳しく調べることができる。
- 足環装着に併せて検体採取を行うことにより、ヒナ健康状態や性別が分かる。

<作業の手順>

1. 高所作業車を使い、巣台からヒナを降ろす
(親鳥は離れていく)。
2. ヒナの身体計測を行い、検体(羽毛や血液など)を採取するとともに、足環を装着する。
3. 高所作業車を使い、ヒナを巣台に戻す。
4. 作業班は巣塔から距離を保ち、親鳥が巣塔に戻ったことを確認して解散する。

ヒナを巣台で捕獲する



＜ヒナ捕獲前の様子＞

- ・ 高所作業車には、ヒナを捕獲する網や、ヒナを入れる捕獲箱（段ボール）などを積みます。
- ・ ヒナは巣の中に伏せていますが、立ち上がって落下するおそれがあるため、ヒナの状態を絶えず遠方から確認します。



＜ヒナ捕獲の瞬間＞

- ・ ヒナが立ち上がってしまわないように、しゃがんだ状態から一気に、ヒナに網をかぶせます。
- ・ ヒナを捕獲用の布に包みこんで動けないようにしてから、捕獲箱（段ボール）に移します。

ヒナを巣台から降ろす



<ヒナの運搬>

- ・ヒナには目隠しをするほか、体温があがらないよう捕獲箱に保冷材を入れておきます。
- ・気候に応じて、直射日光が当たらないように傘をかけます。



<ヒナを作業車からおろす>

- ・高所作業車が下降してから、1羽ずつヒナを降ろします。

身体計測・足環装着



< 身体計測の様子 >

- ・ヒナの体重を計測後、足の太さを測定します。
- ・足環装着部位（脛骨）の太さと踵関節を計測し、足環装着の基準を満たしているかを確認します。



< 足環装着の様子 >

- ・上下左右の配色を確認し、足環を装着します。
- ・足環には、3か所の穴があり、リベット（鉚）を打ち込んで固定します。

検体採取（羽毛・血液）



< 検体の採取① >

- さまざまな検査を行うため、羽毛や血液、クロアカスワブを採取します。



< 検体の採取② >

- 血液採取の様子です。
- ヒナの性別判定の他、健康状態のチェックに活用します。

ヒナを巣台に戻す



＜巣台にヒナを戻す＞

- ヒナを捕獲箱から巣台に移動させます。
- ヒナには網をかぶせて、立ち上がらないようにします。



＜巣台に戻した後＞

- 捕獲用の布を外したら、紐を括り付けた布を被せて、人の姿が目に入らないようにします。

親鳥が巣に戻って、作業完了



<親鳥の帰巢確認>

- ・高所作業車が下降した後は、親鳥が巣にもどることが確認できるまで離れた場所で観察します。
- ・昨年は、ヒナが立ち上がる様子が確認されるまでに2時間程度かかりましたが、今年は1時間程度で親子4羽揃って立ち上がる様子が確認されました。

<ヒナを解放>

- ・高所作業車の下降に合わせて、ヒナの視界が開けたときに紐を引っ張って布を回収します。

完全終了(4羽立ち上がり)時刻
11:47